

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292400080		
法人名	メデカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム 市原国分寺台		
所在地	千葉県市原市国分寺台中央4-1-5		
自己評価作成日	令和7年2月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Tod.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和7年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様、ご家族様、スタッフも喜怒哀楽があり その中でも喜びや楽しさ、笑顔の多い温かいホームを目標にしています。
 現在、コロナ禍で今まで行っていた外出やボランティアなどは自粛させていただいております。
 お花見や夏祭りはホーム内で雰囲気を出し行っています。そのほかの行事や誕生会などは継続しています。
 ご利用者様が食べたいもので手作り可能なものは職員と一緒に作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「喜びや楽しさ、笑顔の多い温かいホーム」を目標に掲げ、家族が意見を出しやすい環境を整えるため、情報提供を徹底している。毎月の便りには運営推進会議の議事録や行事写真を添付し、利用者の日常を分かりやすく伝えている。また、職員が自由に意見を述べられる雰囲気づくりにより、多角的な利用者理解が進み、委員会活動の意見が運営に反映されている。さらに、コロナ禍で制約が多かった外部活動も緩和を契機に活発化し、市や地域包括支援センター、民生委員と連携しながらポッチャ大会やRUN伴への積極的な参加が実現されており、地域と協働する姿勢は評価に値する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念は申し送りや会議時に必ず唱和して職員全員共有しています。職員には、入社オリエンテーションに組み込み必ず説明しています。	申し送り時や会議冒頭に唱和を行い、支援の共有と気持ちの引き締めを図る取り組みがなされている。また、法人作成の「理念冊子」を職員に配布し、日常業務が理念に即しているか確認を促している。さらに、職員が慣れによる基本からの逸脱を防ぐため、OJTを通じて理念の再確認を徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナ禍の為控えております。	コロナの分類緩和により地域との交流が活発化し、今年度は民生委員の案内で市社会福祉協議会主催のポッチャ大会に4名が参加した。さらに、10月にはRUN伴に3名の利用者が参加し、生き生きとした表情が見られた。また、町内会の清掃にも半年に1回参加しており、利用者も積極的に関わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、コロナ禍の為控えております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は中止しております。意見を郵送にていただいています。活動報告等は作成し郵送しています。	コロナ緩和を受け、運営推進会議が書面形式からリアル会議へ移行し、2か月に1回開催されている。市高齢者福祉支援課職員や地域包括支援センター、家族、職員が参加し、感染症状況や活動報告、今後の計画を議題に意見交換を行う。また、議事録には行事の写真を添え、毎月家族に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	解らないことや確認は電話で窓口にお問い合わせをしています。運営推進会議の資料を提出しています。	高齢者福祉支援課とはメールを中心としたやり取りを行い、申請方法や相談などで密な連絡を保っている。最近アンケート調査への対応も行った。地域包括支援センターとは空き室情報のやり取りやイベント情報の案内をいただいている。営業活動を兼ねて2か月に1回程度訪問している。特にRUN伴イベントに関して案内を受け積極的に参加している状況である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束防止の研修会を行っています。職員には入社時オリエンテーションの中で説明をしております。また社内で3か月に1回、虐待・不適切ケア、身体拘束確認チェックシートを実施しています。	身体拘束をしないケアの実践として、3か月に1回の研修を実施しており、本社提供の資料や動画を活用し、職員が学習を深めている。最近の研修では、ドラッグロックを題材に、夜間の睡眠剤投与に頼らず、原因究明を重視した対応を学んだ。また、3か月ごとに「不適切なケアチェックシート」を全職員が記入し、全体会議で討論することで、意識の向上とケアの質の改善を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止の研修と合わせて、定期的に研修を行っています。また社内で3ヶ月に1回、虐待・不適切ケア、身体拘束確認チェックシートを実施しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームにて定期的にコンプライアンス、ご利用者様の権利や尊厳の研修を行っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に読み合わせを行い、内容を確認しています。不明な点や疑問点の有無を尋ね、あれば再度説明しご理解を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様へ電話にて意見を頂いています。各職員へも伝達しており、内容によっては、ケアプランへの反映に努めております。	利用者や家族からの意見を反映する取り組みとして、生活写真のメール送信要望には個人情報の観点から運営推進会議で難しい旨を説明し理解を得た。居室内面会希望については、感染症対応の遅れを経て3月から面会可能である旨を回答した。また、家族からの利用者の好物持参の問い合わせには問題ないとの返答を行い、柔軟な対応を実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議やユニット会議で、意見を出してもらい内容を検討後、活動に活かしています。各委員会を設け、スタッフが提案・企画した行事等が開催できるようにサポートしています。	建物の老朽化に伴いドア取っ手の修理依頼が職員から出された。また、職員からの提案で居室を変更し、センサー対応の迅速化により転倒防止を実現している。さらに職員間で設置された委員会活動が活発で、外出委員会の企画により初詣や花見を実施し、おやつ委員会の提案に基づきプリンアラモードを共同で作るなど、運営に職員の意見を積極的に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要時個人面談を行い、個々の思いを聞き、助言や励ましの言葉をかけるようにしています。勤務の状態によっては、契約社員から正社員、リーダーへ昇格も行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の全体会議、ユニット会議で研修の時間を設けスキルや知識の向上に努めています。ケアについては都度情報の共有、意見交換を行い対応しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、コロナ禍の為控えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントで訪問した際、傾聴し、出来る限り不安や要望を確認するようにしています。状態や注意点を職員に周知できるように、書面にて回覧し入居に備えています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメントに基づきプランを作成、入居時には説明と確認を行っています。入居後の状態を細かく報告しながら、変化に伴い出てくる不安や要望を聞き対応出来るようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望を優先したプランの策定を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が出来る事は職員と一緒にいき、見守るようにしています。掃除、洗濯、台所仕事などを行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、コロナ禍の為面会を控えております。電話で話す機会を設けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナ禍の為控えております。電話で話す機会もあります。	コロナ緩和に伴い、面会機会が増加し、家族が孫を連れて訪れるほか、教会関係の友人が利用者を訪問する場面も見られる。また、家族と共にショッピングセンターのファミリーレストランで食事を楽しむ利用者も確認されている。さらに、散歩中に近隣住民と挨拶を交わし、親交を深める姿も見受けられる等外部との接触も増えてきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが話しやすい環境や気の合う方、合わない方の配置を考慮しています。台所仕事やレクリエーションなど、場面に合わせ配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍の為状況に応じて対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からモニタリングに努め、意向や希望を把握するようにしています。日常の様子や言葉からも、把握できるよう職員からの情報も含め検討させて頂いています。	フロア会議に加え、日常的に職員間で情報を共有し、利用者理解に努めている。職員が自由に意見を表現できる雰囲気を作り、意見交換を通じて多角的な利用者理解を深めている。職員の意見はユニットリーダーが整理し、利用者の状態変化に応じた対策案を提案し、さらに職員の意見を反映して支援方針を決定している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルから情報を収集したり、日常的な会話や御家族様や以前利用していた所から情報を収集し把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子がわかるように、個人個人、記録し観察しています。変化がある時は、申し送りでも伝え把握出来る様になっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの更新月に職員全員にモニタリングを行うと共に、情報やご本人、御家族様の意向を確認し検討、ケアプランの策定を行っています。	3か月毎にケアプランを見直す際、職員の情報や家族の意向を整理し、支援方針に反映させている。「美味しい物が食べたい」と表現できる利用者には、職員が会話を広げ、利用者の好みを引き出して支援に繋げ、言語コミュニケーションが困難な利用者に対しては、表情や行動を観察し、職員間で情報を共有して支援に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践などは、個人ファイルに記録し、情報共有に努めケアをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のご本人やご家族様の状態や状況に合わせた臨機応変な対応を心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、コロナ禍の為控えております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までのかかりつけ医と往診医を選べるようにしております。通院は御家族様に協力をお願いしていますが緊急時や不可能な場合は職員が行う事もあります。	往診医が毎週施設を訪れ、隔週ごとに1・2階の利用者を診察し、医師に相談しやすい環境が整備されている。また、『メディカルケアシステム』を導入し、褥瘡や転倒時の患部を画像で送信し、遠隔で医師の指示を受けることが可能である。アプリを通じて医師や訪問看護師と日常的に情報共有され、健康管理に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと24時間の体制で連絡が取れるようにしております。何かあった場合はすぐに対応できるような体制をとっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に入居者様の情報を伝えています。入院時には面会に伺い看護師や医師に状態をうかがい今後の相談をしています。御家族様にも連絡をさせて頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医、訪問看護、御家族様、職員に協力して頂き看取りも行っています。また看取りの研修を行っています。	看取り段階に入ると、必要に応じて医師が家族に説明し、施設職員と役割分担を行い、利用者が穏やかに過ごせるよう支援する。部屋のドアを少し開けて見守り、1時程度の間隔で居室を訪れて利用者の様子を観察する。職員間で状態を共有して急変等に備えている。職員が落ち着いて対応できるよう事前に研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルと連絡方法を構築し、連携が取れる体制を組んでいます。急変時の対応なども全体会議やユニット会議で伝えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間を想定し避難訓練を実施しています。消防署員も来訪頂き、助言や指導を受けています。地域の方々にも参加を呼び掛けております。	避難訓練には利用者も参加し、職員が階段や避難口を使って外へ誘導している。夜間は職員一人で無理な対応をせず、他の職員が来るまで待機し、シーツをタンカ代わりに動けない利用者を避難させることや、大声で地域住民の助けをを求めることを検討している。災害用の食料や備品も整え、施設内での生活にも備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にその時の状況・状態に応じた声かけや対応をしています。	自宅での生活リズムを尊重し、落ち着いて生活できる環境を整えている。トイレ誘導時には他の利用者に聞こえないよう配慮し、自尊心を傷つける言葉かけは避けている。食事を残しがちな利用者には健康を考慮し、無理強いしない対応を心がけている。また、利用者一人ひとりの特性に応じた支援を行い、個別性を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に行事や外出、外食など意見をもらい反映もしています。買い物や要望や個々での外出も行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度、生活の流れは決まっていますが、声かけをしてその時のご本人の気持ちなどを優先しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えなど、ご自分で選ばれている方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き・配膳・盛り付け・片付けなど、個々に出来る事をして頂いています。	食事の片づけなどの日常的な役割を提供するだけでなく、食事の時間には音楽やお笑いビデオを流し、楽しい雰囲気を演出している。また、箸からスプーンに替えることで、利用者の残存能力を活かした自立支援を行っている。さらに、新年会では栗きんとんのお重詰めを手伝ってもらい、季節に応じた食の楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食個々に記録に残しており栄養吸収がなかなか取れない方には高カロリーの物をお出ししたり嗜好品を出し対応しています。形態や食器なども替えたりもしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけし、出来る方は個々に行って頂き、援助が必要な方は職員が対応しています。夜間は義歯をお預かりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	落ち着きがなかったり、2名対応でトイレ誘導を行ったり個々に合わせた対応をしています。	利用者の行動パターンを観察し、記録や会議を通して対応策を検討している。例えば、施設内をウロウロしている利用者に対し、探し物や帰宅希望、トイレを探しているのかなどの原因を考え、声掛けを行い状況に応じて支援に繋げている。また、便秘がちな利用者には水分摂取を勧めるよう職員間で情報を共有し、適切に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に管理し運動や水分強化に努めています。また、医師看護師に相談し対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々のその日の状態や状況に合わせて入浴して頂いています。ご本人より、入浴の希望があった時には、その時に入浴して頂いています。自立している方はほぼ毎日入浴している方もいます。	利用者の意向に応じて柔軟に入浴支援が行われている。自立度が高い利用者に対しても、職員が浴室に入り声掛けを行い、洗い残しがないように配慮している。また、入浴剤を使用したり、湯舟に浸かっている際には職員との会話やYouTubeで音楽を流し、リラックスした楽しい時間を提供する取り組みがなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態を見極め、日中でも休息を取って頂くようにしています。居室の温度調整や、パジャマに着替えていただくことで、リラックスして入眠出来る様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服準備時にも薬表を見ながら確認し、内服介助時には日付け・〇〇後・名前・錠数を声に出し、職員同士と重複確認しています。又、入居者様にも同様に読み上げてから内服して頂いています。確実に飲み込むのを確認して、空袋の中の残薬の有無をチェックします。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に出来る事をお願いしたり、ご自身から積極的に近づいて頂けるような雰囲気を作っています。1階、2階自由に行き来しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ禍の為控えております。	入浴支援のない日曜日には、職員と共に散歩に出かけ、外の空気を吸ってリフレッシュしている。庭の畑では芋や野菜を育てて収穫を楽しみ、花壇に花を植えて施設を彩る。さらに、花見にはジュースやおやつを持参し、利用者が日常生活の中で役割や楽しみを感じられるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為使用する機会が現在ありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば対応をさせていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や外には季節の花を植えたり、ホーム内の階段やユニットの廊下・リビングには、写真を掲示したり、季節に合わせた装飾やご入居者様が作られた作品を掲示しています。	共有スペースには大きな木の枝が設置され、利用者が折り紙で作った季節の花が飾られている。また、毎日一回、会話や音楽を通じて利用者が笑顔になる明るい雰囲気演出している。さらに、1・2階のユニット合同で新年会などのイベントを毎月開催し、利用者同士の交流を促進する取り組みが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方々でテーブルを囲み、昔話や歌を唄い過ごす方もいます。共有スペースではあっても、ソファに一人で座り、ゆっくりとテレビを見ている方もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベットや、タンスなどの家具を持ち込まれ生活されている方もいます。状態に合わせて、配置変えをしています。居室の壁にも写真やシールを使用して飾りつけもしています。ご本人の好きな物が置かれたりもしています。	家族の協力を得て自宅に近い配置でベッドや家具を設置し、利用者が落ち着いて生活できるように工夫している。また、ふらつきや転倒のリスクに対しては、チェストの角にクッション材を取り付けてケガを防止し、筆筒などの家具配置を見直して歩行時の支えとなる導線を確保することで、安全面にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレなどには手すりが設置してあるので安心して生活できます。居室ドアに名前を表示したりわかりづらいトイレにも表示されています。		